

現代女性の考える「女性の魅力」調査報告

“世間が評価する魅力”と“自分が目指す魅力”をみてみました

ポーラ文化研究所では、20～59 歳までの女性が考える「女性の魅力」について調査しました。
魅力には“世間が評価する魅力”と“自分が目指す魅力”の 2 つの魅力意識があります。
この 2 つの魅力意識を“年齢”と“仕事意識でみたライフスタイル”との関係でみてみました。

調査対象者：首都圏 30Km 圏内に居住する 20 歳～59 歳までの学生を除いた女性 517 人。
家族構成が「核家族」「DINKS」「シングル」「親と同居」のいずれかの方です。

◆全体としては

- ・ “世間が評価する魅力”の第 1 位は【年齢を重ねた美しさ】。
- ・ “世間が評価する魅力”の第 5 位に【仕事ができる】が入ってきているのは女性の高学歴化、社会進出を反映していると思われます。

◆ライフスタイル別では

- ・ <仕事中心>の女性たちは仕事面において「実質的パフォーマンス」を魅力ととらえています。

◆“世間が評価する魅力”と“自分が目指す魅力”を比較してみると

- ・ <仕事中心>の女性たちは世間の評価にこだわらずに、自分の魅力づくりを目指す傾向が強いようです

・ 目的

ポーラ文化研究所では、20歳～59歳（学生を除く）までの女性が考える「女性の魅力」について調査しました。魅力には“世間が評価する魅力”と“個人的が目指す魅力”の2つの魅力意識があります。この2つの魅力意識を“年齢”と“仕事意識でみたライフスタイル”との関係でみてみました。

・ 調査概要

調査対象者 首都圏 30Km 圏内に居住する 20 歳～59 歳までの学生を除いた女性 517 人。
家族構成が「核家族」「DINKS」「シングル」「親と同居」のいずれかです。

・ 年齢構成

サンプルデザイン 年齢層（単位：人）

20～29 歳	130
30～39 歳	128
40～49 歳	129
50～59 歳	130

サンプルデザイン 属性（単位：人）

フルタイム勤務	186
専業主婦	231
パート・アルバイト	100

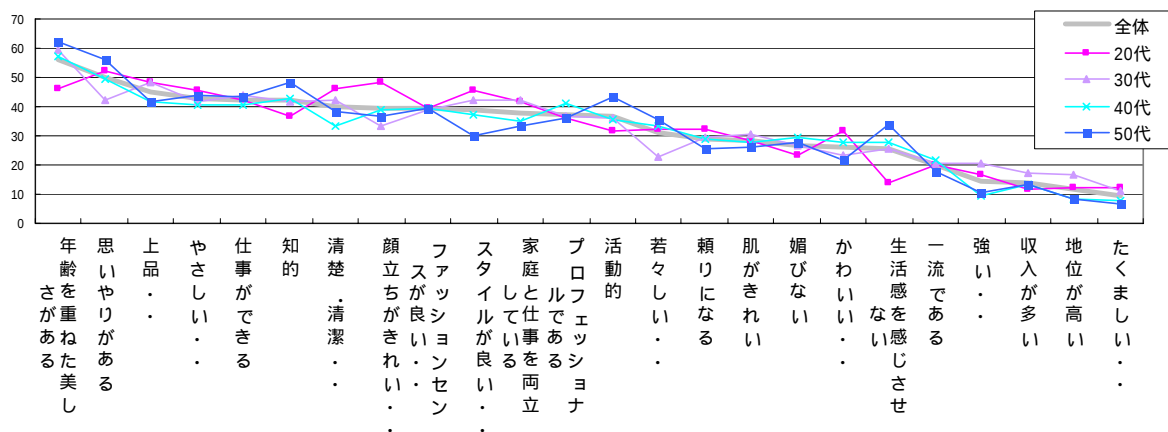
- ・ 調査対象者抽出方法 エリアサンプリング方法
- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 調査時期 2005 年 6 月

「年齢」と「ライフスタイル」別に見た“世間が評価する”と思われる魅力と“自分が目指したい魅力”との関係を見る

1. 「年齢」別、“世間が評価する魅力”と“自分自身が目指す魅力”

■ “世間が評価する魅力”は何だと思いますか？ / 複数回答

% 「全体平均では【年齢を重ねた美しさ】が1位」 ~

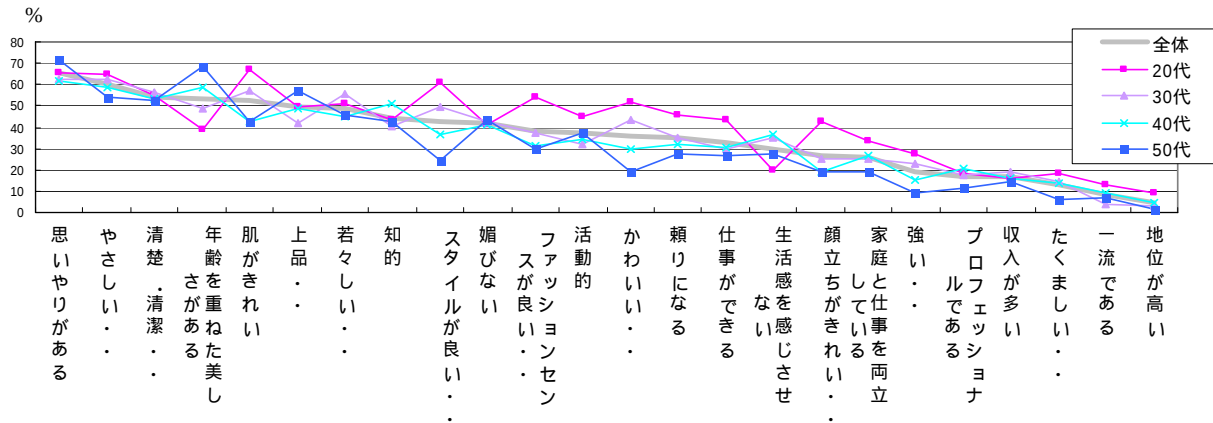


全体平均の上位は1位【年齢を重ねた美しさがある】、2位【思いやりがある】、3位【上品】、4位【やさしい】、5位【仕事ができる】、6位【知的】となっています。【年齢を重ねた美しさがある】は【若々しいより】30ポイントも高くなっています。大きく分類すると【思いやりがある】【やさしい】などの情緒的魅力の次に【顔立ちがきれい】【ファッションセンスが良い】【スタイルが良い】等の外見的魅力が評価され则认为られ、【頼りになる】【媚びない】【たくましい】などの自立性魅力は高く評価されていないと考えられている。

現代日本人女性は20代以降世代では「世間は外見を一番に評価する」とは考えていないことがわかります。また【仕事ができる】【知的】という項目は女性の高学歴化、社会進出を反映したものと思われる。

■ “自分自身が目指したい魅力”はなんですか？ / 複数回答

～「情緒的魅力が上位」～



全体平均の上位は1位【思いやりがある】、2位【やさしい】、3位【清楚・清潔】、4位【年齢を重ねた美しさがある】、5位【肌がきれい】、6位【上品】となっています。“世間が評価する魅力”と比べてみますと5位にあげられた【仕事ができる】はここでは15位と順位を下げ、【肌がきれい】【若々しい】といった見た目の印象に関わる項目が順位をあげています。

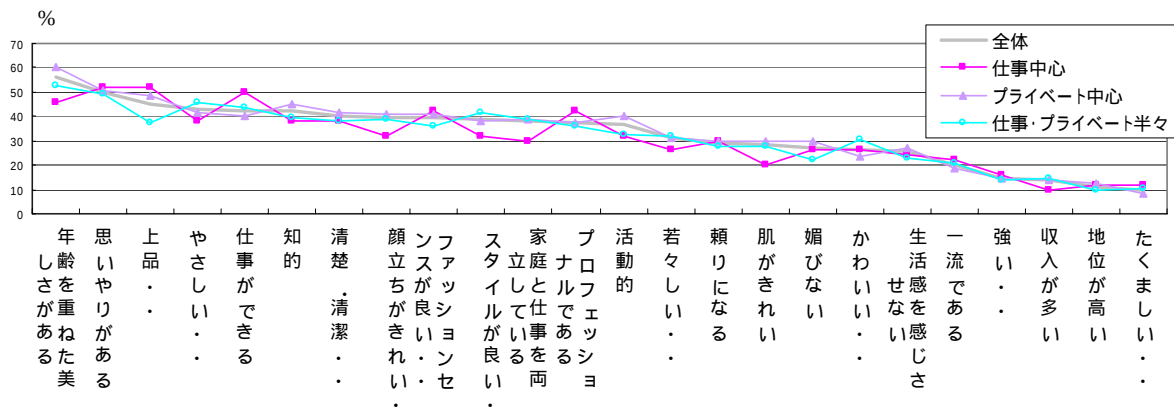
おしゃれ因子における“自分が目指したい魅力”では【肌がきれい】や【若々しい】が、【ファッションセンスが良い】や【顔立ちがきれい】より高く意識され、実現可能な魅力づくりとしてプライベートな欲求となっていることがわかります。

20代は平均的にそれぞれの項目にポイントが高く、世間が評価すると考える魅力と同様に外見的魅力が高くなっている。

世代間で価値観の違いがあらわれたのは20代と50代の【スタイルが良い】、【かわいい】、【年齢を重ねた美しさがある】への反応。【スタイルが良い】に関して20代は60.8%に対して50代は24.6%、【かわいい】に関しては20代は51.5%に対して50代は19.2%。反対に【年齢を重ねた美しさがある】では50代は68.5%に対して20代は38.5%であった。若い子はスタイルがよくかわいいを魅力と意識し、マチュア世代は時を重ねて作られる内面、外面の美しさを魅力としている人が多いようです。

2. 「ライフスタイル」別、“世間が評価する魅力”と“自分自身が目指す魅力”

■ “世間が評価する魅力”は何だと思いますか？ / 複数回答



<仕事中心> <仕事・プライベート半々> <プライベート中心> と、どの生活スタイルの女性たちもほぼ同じ傾向を示しています。全体として【仕事ができる】が42.4%で上位にあがってきているのは時代のトレンドといえそうです。

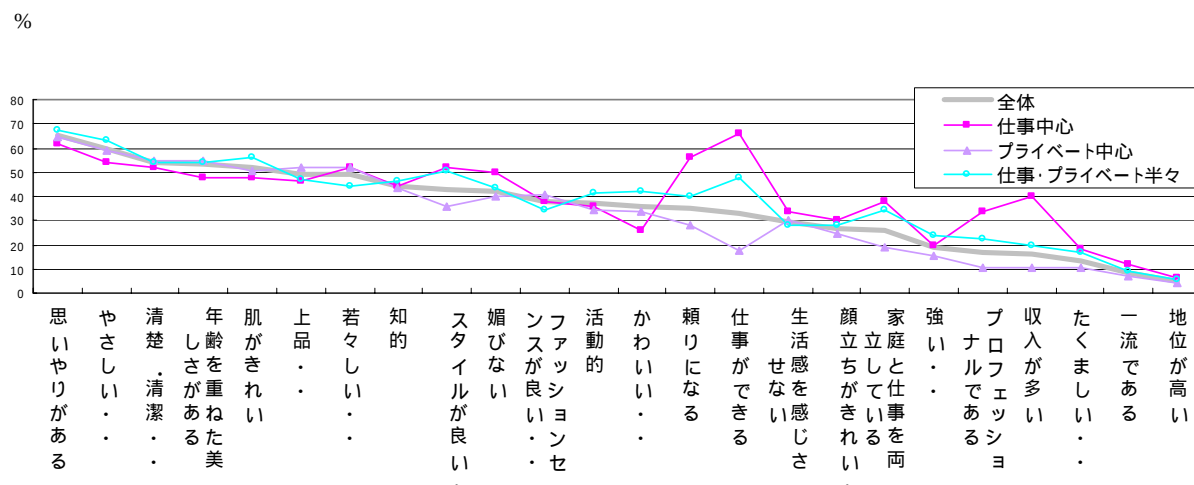
<仕事中心> の女性たちは外見では仕事上での見られ方を想定した【ファッションセンスが良い】をやや強く意識しているようです。

<プライベート中心> の女性たちは、世間は外見の印象を評価していると考えているようです。

【年齢を重ねた美しさ】60.4%【ファッションセンスの良さ】40.7%、【顔立ちがきれい】41.1%などパブリックな場での見た目が評価されると意識しています。

■ “ 自分自身が目指したい魅力 ” はなんですか？ / 複数回答

～ 「 仕事中心の女性たちは仕事面の実質的パフォーマンス」を高く意識 ～



< 仕事中心 > の女性たちが目指す魅力の上位に【仕事ができる】66%、【頼りになる】56%がきています。自立して生きていくという意識が色濃くあらわれています。

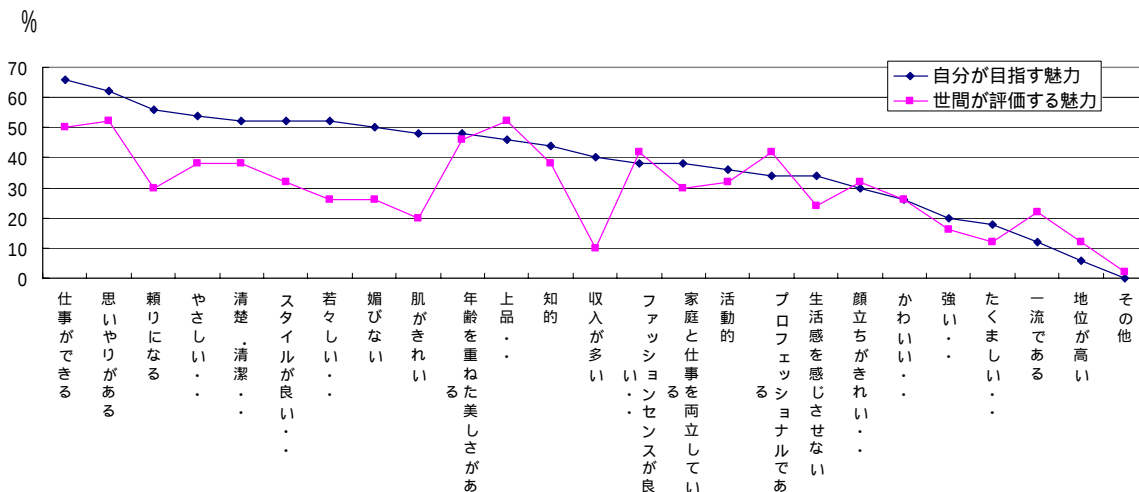
さらに、< 仕事中心 > の女性たちは【一流である】12%、【地位が高い】6%というポジションよりも【仕事ができる】66%、【収入が多い】40%のほうがポイントが高く、実質的パフォーマンスを仕事において目指していることがわかります。

< プライベート中心 > の女性たちが目指す魅力は【思いやりがある】64.6%、【やさしい】58.9%、【清楚・清潔】54.7%であり、情緒的魅力が上位をしめています。

< プライベート中心 > の女性たちと< 仕事中心 > の女性たちの意識の違いは仕事上の魅力に関わる項目に現れていて、< 仕事中心 > の女性たちは、【頼りになる】【仕事ができる】【家庭と仕事を両立している】【プロフェッショナルである】【収入が多い】など男性と同様な仕事上の魅力を女性的な情緒的魅力にプラスすることを積極的に目指している。

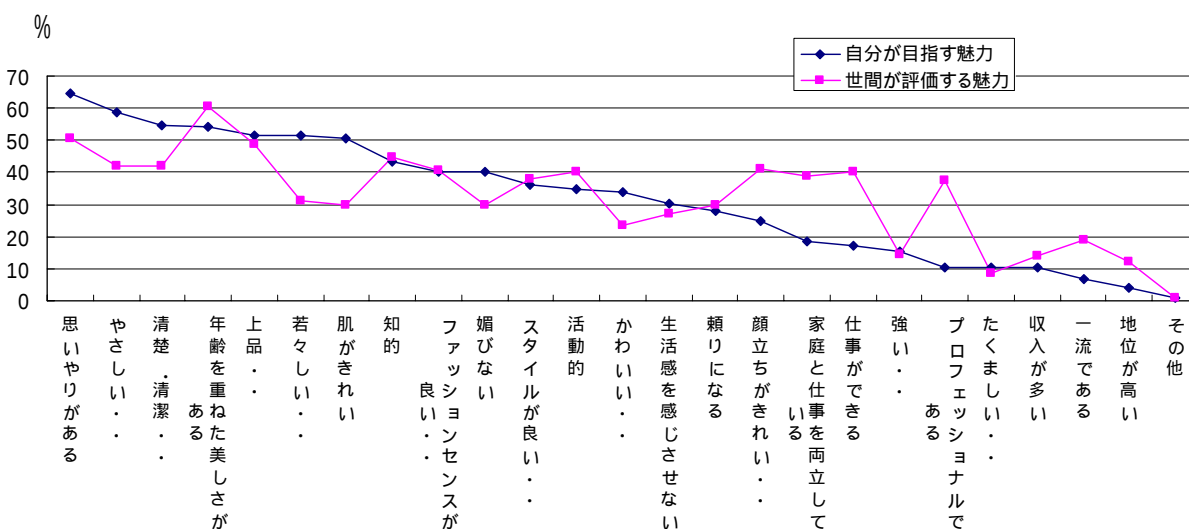
3. 「ライフスタイル別」「自分が目指す魅力」と「世間が評価する魅力」とを比較してみると

■ 仕事中心のライフスタイルの女性たちにおける比較



< 仕事中心 > の女性たちは、世間の評価にこだわらずに自立的、情緒的いずれのジャンルに対しても魅力づくりを目指す人が多いようです。特に【仕事ができる】66%、【頼りになる】56%【収入が多い】40%といった自立的なものに対する支持の高さが伺えます。

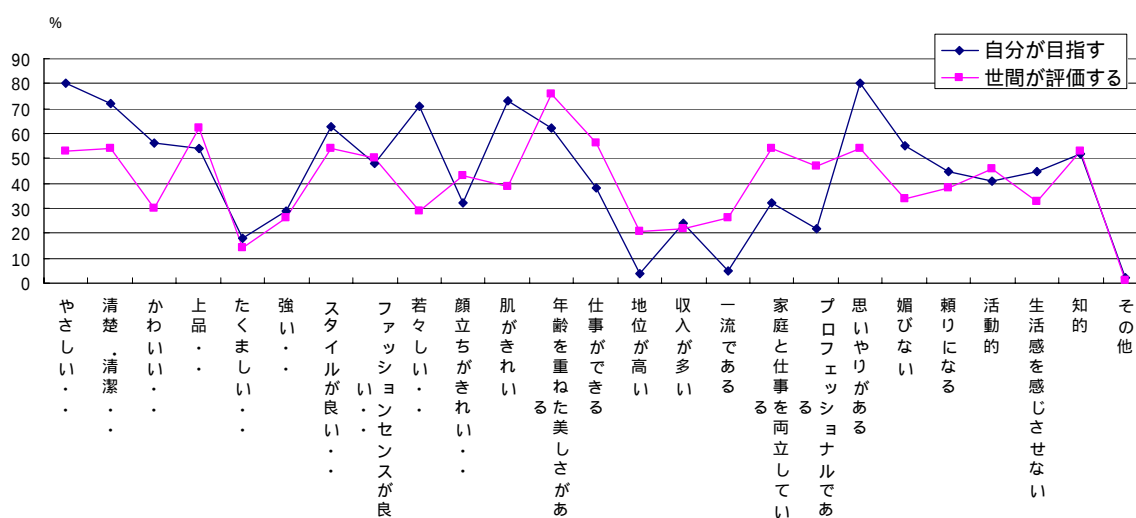
■ プライベート中心のライフスタイルの女性たちの比較



<プライベート中心>の女性たちは【思いやりがある】64%、【やさしい】58.9%といった情緒的魅力づくりには世間の評価とは別に努力するという姿勢を示しています。しかしビジネス関連に対しては消極的という傾向が強いようです。<プライベート中心>の女性たちはビジネスよりは情緒的魅力を目指す女性が多いようです。

4. 「年齢別」(30代)“自分自身が目指す魅力”と“世間が評価する魅力”と比較してみると

～ 「30代の【若々しさ】に対する姿勢には強いものがある」 ～



71%の女性たちは自分は【若々しさ】を目指すと答えていますが、反対に【若々しさ】を世間が魅力として評価すると考えているのは31%。30代にとっては【若々しさ】はついこの間まで経験していたこととしてリアルに感じられる魅力。30代の女性にとって【若々しさ】は世間の評価はなくとも、自分自身は若々しくありたいと意識している女性が多いようです。

結語

今回は“世間が評価する魅力”と“自分自身が目指したい魅力”を比較してみました。

【思いやりがある】【やさしい】【上品】【清楚・清潔】などの情緒的魅力が、世間、自分ともに高い評価の対象になっており同じ情緒性でも【強い】【たくましい】は評価されていません。

このような傾向のなかで、ライフスタイル別では<仕事中心>の女性たちは【頼りになる】【仕事ができる】という仕事上の魅力を強く目指し、年齢別では、30代以降の年代の女性たちは【年齢を重ねた美しさ】を【若々しい】より上位にランクしています。